

スチームアイロン 保証書

持込修理

型番	SI-201		
お客様	ご住所	〒□□□ □□□□ TEL	
	お名前	様	
保証期間	本体	お買上げ日から 1 年	お買上げ日 年 月 日
	販売店	住所・店名	TEL (印)

- この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて、ご不明の場合は、お買上げの販売店、または、お客様ご相談センターへお問い合わせください。
- お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合は、本保証書記載内容によりお買上げの販売店が無料修理いたします。
- 左の欄に記入のない場合は有効とはなりませんから必ず記入の有無をご確認ください。もし記入がない場合は、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

●販売店様へ：太ワクの中は必ず記入してお渡してください。

保証規定

- メーカー保証期間内(お買上げ日から1年間)に、正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
- 修理は、お買上げの販売店に必ず本保証書をご提示の上ご依頼ください。
- ご贈答、ご転居の際は、事前にお買上げの販売店、電気店へご相談ください。
- つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
 - 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
 - お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
 - 火災、地震、風水害、落雷、塩害、ガス害、その他天災地変、公害及び異常電圧などによる故障及び損傷
 - 車輛、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷
 - 一般家庭以外(例えば業務)に使用された場合の故障及び損傷
 - 腐食、穴づまりによる故障及び損傷
 - プラスチックの表面(フッ素樹脂加工も含む)及びメッキの摩耗や打痕による損傷
 - 本書のご提示がない場合
 - 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書替えられた場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid only with in Japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

年 月 日	サービス内容	点検印
・ ・		
・ ・		
・ ・		

株式会社 石崎電機製作所

■お客様ご相談センター 〒340-0807埼玉県八潮市新町9 TEL.048-931-3110

W-YU-1503

スチームアイロン (家庭用)

型番 SI-201

取扱説明書

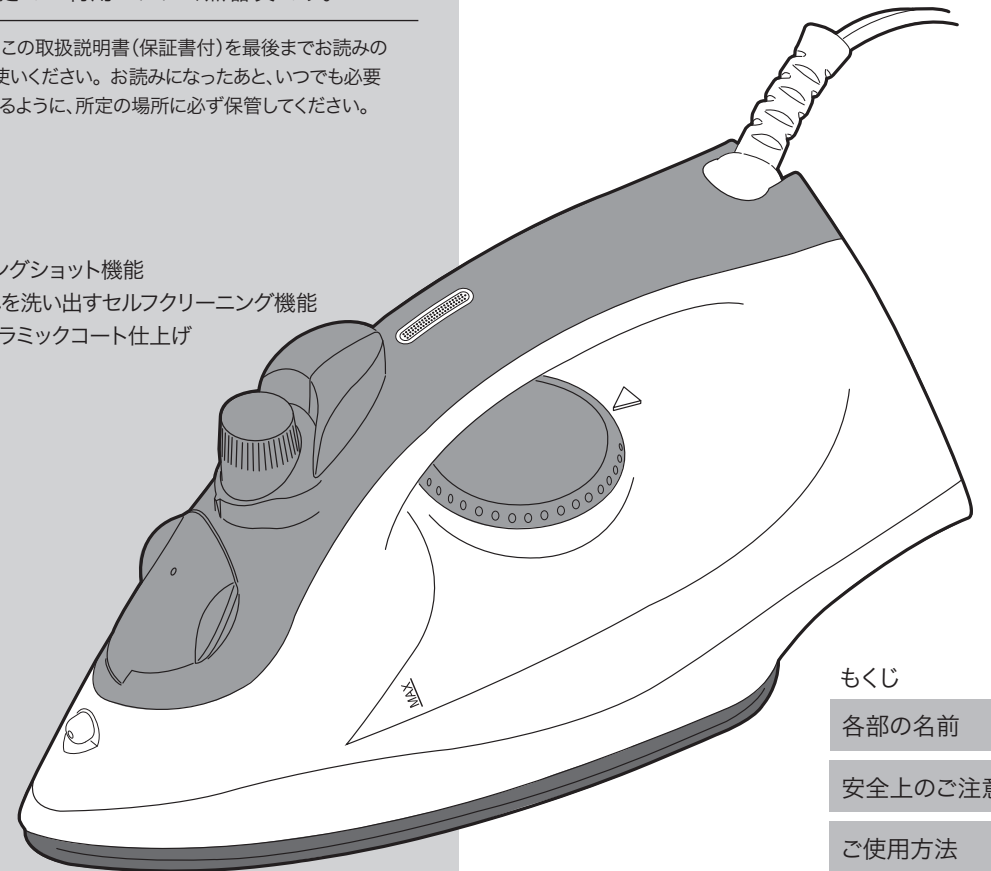
■保証書付

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございました。
一般のご家庭でご利用いただく熱器具です。

必ずご使用前にこの取扱説明書(保証書付)を最後までお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあと、いつでも必要な時に取り出せるように、所定の場所に必ず保管してください。

【特長】

- スタンディングショット機能
- 内部の汚れを洗い出すセルフクリーニング機能
- かけ面はセラミックコート仕上げ

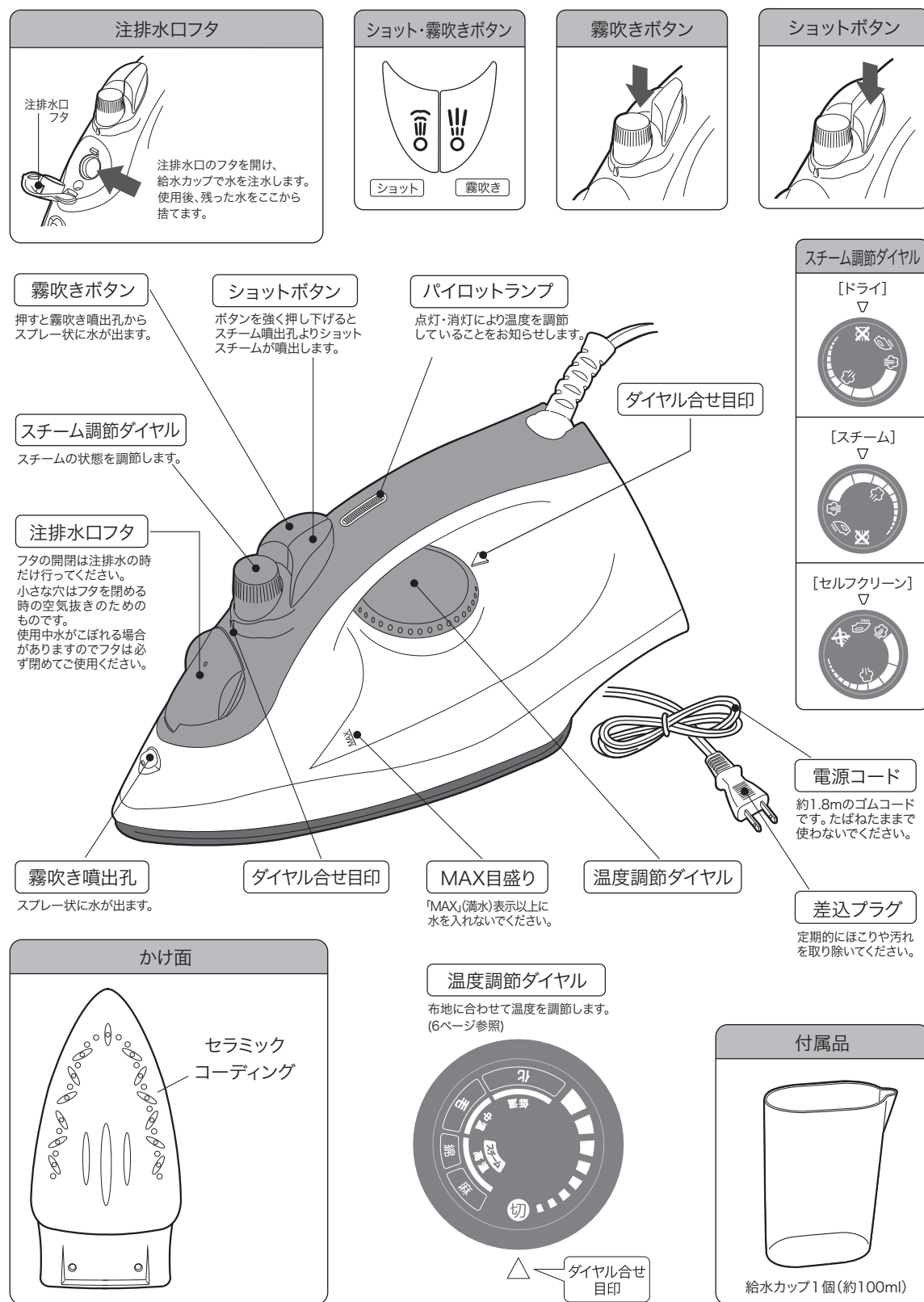


もくじ	ページ
各部の名前	1
安全上のご注意	2～5
ご使用方法	6～10
アイロンの上手な使い方	10～11
知っておいていただきたいこと	11
お手入れと保管	12
故障かな?と思ったら	13
仕様	13
保証とアフターサービス	14
保証書	裏表紙

※水タンク内に若干の水滴が付着している場合がありますが、スチーム検査を行っているためで、異常ではありません。

より確かなものを……
SURE
シェア

各部の名前



安全上のご注意(その1)

ご使用の前に、「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

■表示と意味は次のとおりです。

- 警告** この警告表示を無視して間違った取り扱いをしますと、使用者や近付いた方が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。
- 注意** この注意表示を無視して間違った取り扱いをしますと、使用者や近付いた方が障害を負う可能性が想定されること、また、物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

■具体的な絵表示には次の意味がありますので十分に理解してお読みください。

- 感電注意** △は、注意(警告を含む)を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。左図の場合は「感電注意」を表します。
- 分解禁止** ⊘は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。左図の場合は「分解禁止」を表します。
- プラグを抜く** ●は、強制(必ずすること)を示します。具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。左図の場合は「差込プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

警告

やけど・けがを防ぐために

- 子供だけで使わせたり取り扱いに不慣れな方の使用や、幼児の手の届くところで使わない。やけど・感電・けがの原因になります。
- 異常・故障時にはすぐに使用を中止し、差込プラグを抜く。
・電源コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
・コゲくさい臭いがする。
・電源コードや差込プラグが、異常に熱い。
などの症状が出たら、すぐに販売店または、お客様ご相談センターへ点検・修理を依頼してください。
- 禁止**
必ず行う

安全上のご注意(その2)

⚠ 警告

取り扱い・使い方

 分解禁止	●修理技術者以外の方は、絶対に分解・修理は行わない。また改造はしない。 異常動作して、感電・発火しけがの原因になります。	 禁止	●カーテンなど可燃物の近くで使わない。 火災の原因になります。
 ぬれ手禁止	●濡れた手で温度調節ダイヤルの操作をしない。 感電やけがの原因になります。	 禁止	●本体を水につけたり、水をかけたりしない。 ショート・感電の原因になります。

⚠ 警告

電源・コード

 禁止	●電源は交流100Vで定格15A以上のコンセントを単独で使う。 他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。	 必ず行う	●差込プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。
 禁止	●電源コードや差込プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 必ず行う	●差込プラグのほこり等は定期的に拭きとる。 プラグにほこり等がたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。
 禁止	●電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また、重い物を載せたり挟み込んだりしない。 コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。	 プラグを抜く	●使用時以外は差込プラグを必ずコンセントから抜く。 けが・やけど・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。
 ぬれ手禁止	●濡れた手で差込プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。	 必ず行う	●差込プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の差込プラグを持って引き抜く。 感電・ショート・故障の原因になります。
 禁止	●差込プラグにピンやクリップやごみを付着させない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 必ず行う	●電源コードに足などを引っかけないように注意する。 けがや故障の原因になります。
 禁止	●差込プラグをなめさせない。 乳幼児が誤ってなめないように注意する。 感電・けがの原因になります。		

⚠ 注意

けが・やけどを防ぐために

 禁止	●不安定な場所の上では使用しない。 毛足の長い敷物や不安定な所に置くと、転倒して敷物の損傷、けが・やけどの原因になります。	 必ず行う	●注水や排水のときは、差込プラグを必ずコンセントから抜く。 感電の原因になります。
 禁止	●熱いスチームに触れない。 やけどの原因になります。	 禁止	●アイロンかけ以外の目的で使用しない。 過熱・異常動作による発火・やけどの原因になります。
 接触禁止	●使用中・使用直後は高温部(かけ面)に触れない。 やけどの原因になります。	 禁止	●着用したままの衣類にかけない。 やけどの原因になります。
 禁止	●アイロンを傾けたり、前後にはげしく動かさない。 やけどの原因になります。	 必ず行う	●湿った衣類(霧吹きした衣類)は、「ドライ」 ✕でアイロンかけをする。 スチームで行うと湯滴が出て、やけどの原因になります。

⚠ 注意

発火・火災を防ぐために

 禁止	●使用中は本体から離れない。 火災の原因になります。	 禁止	●アイロンの近くで可燃性ガスなどが発生するものを使用しない。 火災の原因になります。
 禁止	●熱い状態のアイロンに電源コードを巻き付けない。 ショート・発火することがあります。		

⚠ 注意

使用場所

 禁止	●風呂場やシャワー室などの湿気の多い場所でアイロンかけはしない。 火災・感電の原因になります。	 禁止	●火気(コンロ・ストーブ)の近くやほこりの多いところ、水のかかるところでは使用しない。 故障や破損、ショート・発火及び感電・漏電の原因になります。
 禁止	●壁や家具の近くでは使わない。 熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。 また、本体の故障・変形や火災の原因になります。	 禁止	●ビニールクロスなど熱に弱い敷物の上や、じゅうたん、新聞紙、ダンボールなどや畳の上では使用しない。 火災の原因になります。 (市販のアイロン台のご使用をお勧めします。)

安全上のご注意(その3)

⚠ 注意 取り扱い

 禁止	●市販のかけ面カバーは使わない。 誤動作の原因になります。	 必ず行う	●水は蒸留水または水道水を使用する。 にごった水やリネンウォーター、香料を含んだ水を使うと、水アカがたまり腐食や故障の原因になります。
 禁止	●通電直後にスチームを使わない。 かけ面から水もれすることがあります。	 必ず行う	●アイロンかけしている衣類などが異常に発煙したり発火した場合は、すぐに温度調節ダイヤルを「切」にし、差込プラグを抜く。 火災の原因になります。
 禁止	●水をこぼさない。 誤動作の原因になります。 水がこぼれたときは、布で拭き取ってから使用してください。	 必ず行う	●衣類などに付いているアイロンマークを必ず守る。 衣類などのこげ・変質などの原因になります。 (絵表示の説明は6ページをご覧ください。)
 禁止	●スチーム使用のときは、スプレーのりを使用しない。 かけ面にのりが付着し、アイロンかけがスムーズにできなくなることがあります。	 必ず行う	●水タンクへの注水は「MAX」目盛りまで。 目盛り以上に入れると、使用中に水がこぼれます。
 禁止	●ショットボタンを連続して早く押さない。 3秒以内に連続で押すと湯滴が出てやけどの原因になります。	 必ず行う	●通電しないとき及び保管中は、必ず「ドライ」  にする。 切換えボタンを「スチーム」  ～  位置にしないでください。 水タンクの水は、必ず排水してください。
 禁止	●ショットスチームの勢いが弱くなったらショットボタンを押さない。 湯滴が出てやけどの原因になります。	 必ず行う	●落下などにより本体が破損した場合は、差込プラグを抜いて修理の依頼を行なう。 感電事故の原因になります。
 禁止	●ボタン・ファスナーなどの固いものにアイロンかけはしない。 かけ面の傷付き・コーティングがはがれやすくなります。	 プラグを抜く	●お手入れのときは、差込プラグをコンセントから必ず抜いて行なう。 感電の原因になります。
 接触禁止	●お手入れ及び持ち運ぶときや保管するときは、アイロンが十分に冷めてから行なう。 やけど・火災の原因になります。	 必ず行う	●3～5年に一度は定期点検を行う。 本体内部にほこりなどがたまったまま長時間使用すると、火災や故障の原因になります。 (有償点検となります。)
 禁止	●業務使用は行わない。 一般家庭用のアイロンです。ご使用方法を理解せずに不特定多数の方がご使用されることはアイロンの早期故障や重大事故につながります。	 禁止	●アイロン内部にピンや針金などの異物を入れない。 また、衣類に縫い針などを刺したままアイロンかけをしない。 感電したり、ショートや故障の原因になります。
 必ず行う	●注水時、必ずスチーム調節ダイヤルを「ドライ」  にする。 かけ面から水漏れすることがあります。		

ご使用方法(その1)

温度の設定の仕方

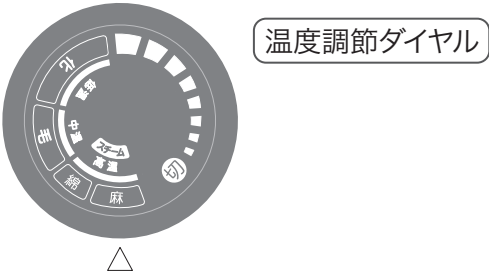
絵表示と目盛りの見かた

衣類・布地の種類	アクリル アクリル系 ポリウレタン ポリプロピレン	毛 ポリエステル レーヨン キュプラ 絹・ナイロン アセテート ビニロン	スチーム／ショットスチーム	
			綿	麻
温度目盛	化	毛	綿	麻
	低	中温	高温	
かけ面の温度	約80℃～約120℃	約130℃～約160℃	約170℃～約180℃	約190℃～約200℃
絵表示	 低  低	 中  中	 高  高	

●ビニロンには湿り気を与えてアイロンをかけないでください。

■絵表示の見かた		
 ～印はあて布をする意味です。	 裏から 布地の裏側から掛ける意味です。	 アイロンかけはできません。

※その他「スチーム浮かしかけ」「スチーム禁止」などの表示があれば、その表示に従ってください。



- おかけになる布地に日本工業規格「JIS」で定められた絵表示がある場合は、その絵表示に従って温度調節ダイヤルの目盛りを合わせてください。
- 絵表示がない場合は、布地に温度調節ダイヤルを合わせてください。
- 混紡の場合は、低い方の繊維温度に合わせてください。
- 低温・中温および熱に弱い布地には「あて布」をするか「ためしかけ」をしてください。
- 布地に合った温度目盛でアイロンかけをしても、布の上で止めたり、極端にゆっくり動かしたりすると布地をいためることがありますので注意してください。
- 布地のテカリを防止するには「あて布」をしてください。

スチーム使用のポイント

- 「スチーム」や「ショットスチーム」は、必ず温度調節ダイヤルを高温にしてお使いください。
- 「スチーム」への切換え直後は、スチームが出にくいことやかけ面の温度により不規則に出る場合がありますが故障ではありません。
- スチームの出始めに白い粉が出る場合がありますが異常ではありません。
周囲の安全確認し、スチームを空噴出してからアイロンかけを行ってください。
- スチームアイロンとして使用すると、アイロンや水タンクに水滴が付着する場合があります。
スチームが結露するため異常ではありません。
水滴が多い場合は拭き取ってください。

ご使用方法(その2)

スチームアイロンとしての使い方

1 水タンクに注水する

●注水し、スチーム使用の準備ができるまで差込プラグをコンセントに差し込まないでください。

①温度調節ダイヤルを「切」にしてください。

②スチーム調節ダイヤルは、必ず「ドライ」✕にしてください。

③注排水口フタを開けます。

④付属の給水カップを使い「MAX」目盛り以下まで水をゆっくり入れてください。

●「MAX」以上に水を入れないでください。

●水は蒸留水または水道水を使用してください。

●次の水は入れないでください。

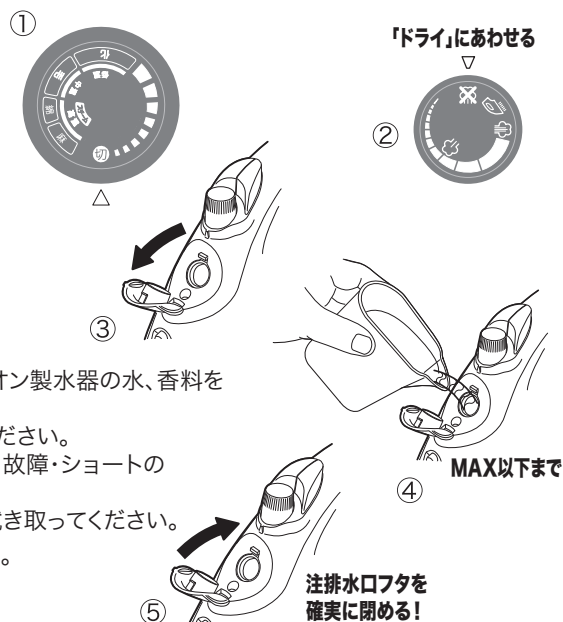
汚れた水、ミネラルウォーター、軟水器の水、アルカリイオン製水器の水、香料を含んだ水など。

●水タンクに水を入れる際には必ず給水カップをご使用ください。

直接、水道から入ると水があふれ、製品内に入り感電・故障・ショートの原因になります。

●注水の時、水がアイロンの外側にこぼれたときは、布で拭き取ってください。

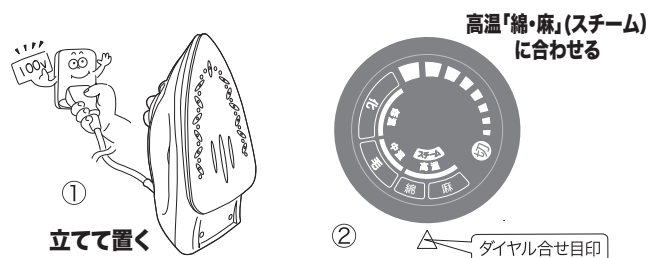
⑤注水が終わったら注排水口フタを確実に閉めてください。



2 温度設定をする

①アイロンを立てて置き、差込プラグを正しく配線された交流100Vのコンセントに、根元までしっかりと差し込んでください。

②温度調節ダイヤルを高温「綿・麻」(スチーム)に合わせてください。
(6ページの「絵表示と温度設定の見かた」の項をご覧ください。)



3 使用開始する

①適温になるとパイロットランプが消えて使用できます。

②アイロンを水平にしてスチーム調節ダイヤルを「スチーム」☁〜☁に切換えるとスチームが噴出します。

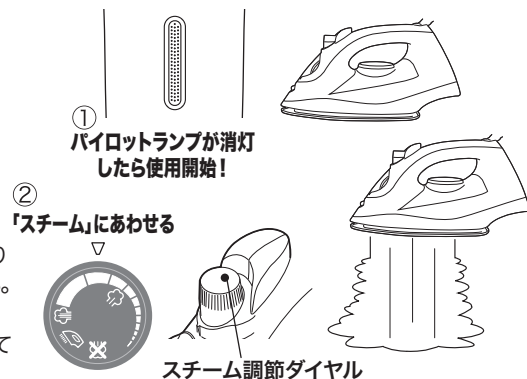
●途中で温度調節ダイヤルを高温以外にすると、水漏れ防止のオートバルブが動作してスチームが止まります。

●水が少ない場合は、「MAX」目盛りまで水をいれてください。

※パイロットランプの点灯と消灯

使用中は、パイロットランプが消灯=適温/点灯=通電加熱を繰り返します。パイロットランプ点灯時は消灯してからご使用ください。

●スチームは、途中で止まりますが、パイロットランプが点灯し、消灯後スチームが出ます。水漏れ防止のオートバルブが動作していますので異常ではありません。



スチームアイロンとしての使い方 2

⚠ 注意

●スチームは、高温ですのでやけどなどに十分注意する。

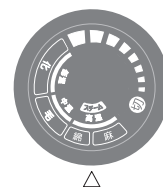
●使用中・使用直後は、高温部(かけ面)に触れない。やけどの原因になります。

●使用中は、本体から触れない。火災の原因になります。

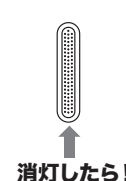
●使用中に「セルフクリーニング」☁に切り替えない。多量の湯滴が出て、やけどのおそれがあります。

ショットスチームを使用する

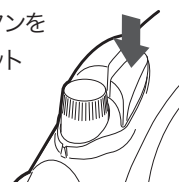
1、温度調節ダイヤルを高温にします。



2、パイロットランプが点灯後、消灯したら使用できます。



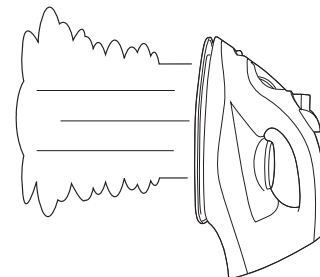
3、ショットボタンを押すとショットスチームが出ます。



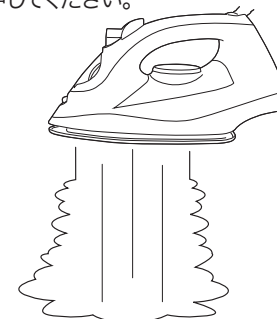
●ショットスチームが出にくいときは、

①水タンクの水が少ない場合は、注水してください。

②ショットボタンを数回押してください。それでも出にくいときは、さらに数回押してください。



●スタンディングショット アイロンを垂直に



●パワーショット アイロンを水平に

⚠ 注意

スチームのやけど、水漏れや湯滴の発生などの防止のため、使用方法を十分ご理解いただき、正しくお使いください。

●スチームを人に向けたり、着用した衣類にショットスチームを使用しない。

●横向きや逆さで使用しない。

●ショットは連続で使用しない。必ず3秒以上の間隔をあける。

●高温以外での使用や、パイロットランプ点灯中(加熱中)に使用しない。必ず高温で使用する。

・高級品や特殊加工されたものは、かけ面を衣類から約10cmほど離し、目立たない所のためしかけを行ってからご使用ください。衣類によりダメージを受ける場合があります。

特にベルベット、アクリルナイロン、カシミアなどご注意ください。

・コートや毛足の長い衣類は、かけ面を離してショットしてください。

・皮革製品・絹などには使用しないでください。衣類を傷める原因になります。

ご使用方法(その3)

4 使用後

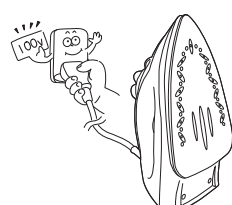
使用後アイロン内部の腐食防止のため、次の事項を必ず行なってください。

- ①温度調節ダイヤルを「切」にして差込プラグをコンセントから抜いてください。
- ②スチーム調節ダイヤルを「ドライ」✕に合わせたあと、水を捨ててください。
- ③注水後、注排水口フタを開けたまま、温度調節ダイヤルを「高温」にし、スチーム調節ダイヤルはそのまま「ドライ」✕にして約5分間通電してアイロンかけ面内を乾燥させます。この時、水タンク内部に水滴が付着しますが、問題はありません。
- ④差込プラグを抜き、かけ面が冷めるまで安全な場所に立てて置きます。
- ⑤腐食防止のため、スチーム調節ダイヤルは必ず「ドライ」✕に合わせてください。

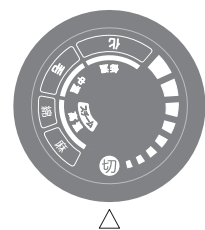
ドライアイロンとしての使い方

1 温度調節をする。

- ①アイロンを立てて置き、温度調節ダイヤルを「切」にして差込プラグを正しく配線された交流100Vのコンセントに、根元までしっかりと差し込んでください。
- ②温度調節ダイヤルを回して布地に合わせてください。
(6ページの「絵表示と目盛りの見かた」の項をご覧ください。)



立てて置く



「切」にして



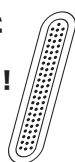
布地に合わせる

■スチーム調節をする スチーム調節ダイヤルを「ドライ」✕に合わせてください。

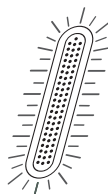
2 使用開始する。

- ①適温になるとパイロットランプが消えます。
通電加熱中はパイロットランプが点灯します。

適温になると
パイロット
ランプが消灯!

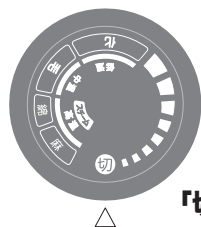


通電加熱中は
パイロット
ランプが点灯!



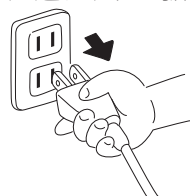
3 使用後

- ①温度調節ダイヤルを「切」にし、差込プラグをコンセントから抜いてください。
- ②かけ面が冷めるまで安全な場所に立てて置きます。



「切」にして

差込プラグを抜く

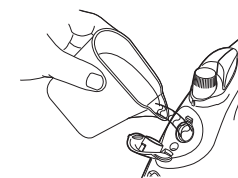


必ず行う

●霧吹きボタンの使い方

1 タンクに注水する。

- スチームアイロンとしての使い方の「1. タンクに注水する」の手順で注水してください。



2 霧吹きボタンを押し、霧吹きを噴出させる。

- 霧吹きが出にくいときは、霧吹きボタンを数回押してください。



霧吹きが出にくいときは



何回か
押してみる

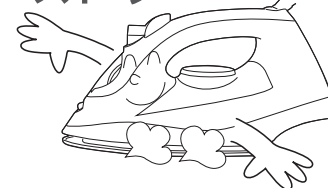
3 使用後

- ①スチームアイロンとしての使い方の「4. 使用後」の手順を行ってください。
- ②霧吹きボタンを数回押して水を出しきってください。

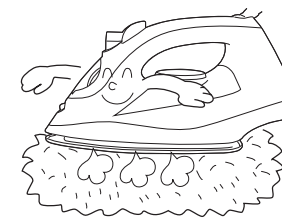
アイロンの上手な使い方(その1)

- 必要以上の力をかけないで衣類の上をすべらすように軽くかけるだけで十分です。

スイ〜ツ



- ウールやセーターのような毛足の長い繊維には「浮かしかけ」をしてスチームを当てます。

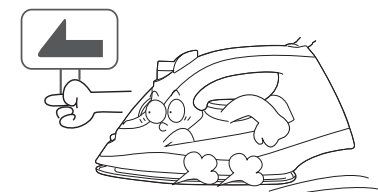


- とくに折り目ははっきりつけたい所やガンコなシワの部分はしっかり押えます。



ギュ〜ツ

- アイロンを往復させたりすると余分なシワができます。一定方向に動かしましょう。

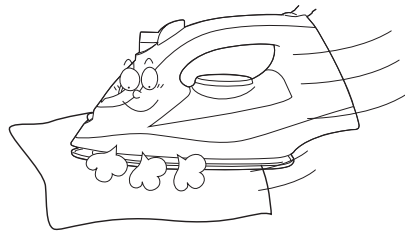


アイロンの上手な使い方(その2)

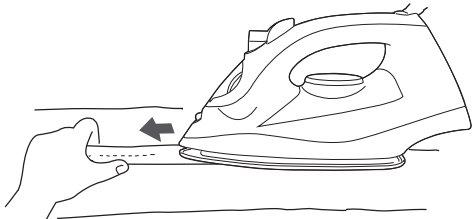
- アイロンかけは、ドライで低温の布地から。繊維をいためる恐れもなく、早くできます。



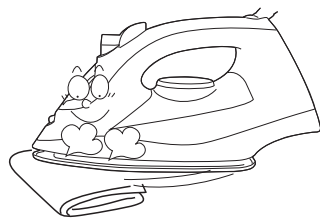
- 適度な温度と湿り気でサッと仕上げるのがコツです。



- 衣類の縫い目に合わせ、縫い目を引っ張り気味にかけるとポイントです。

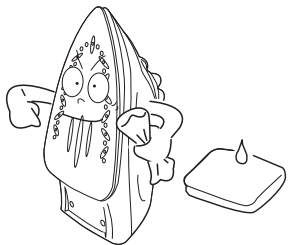


- ハンカチなどの小さいものは、電源を切ったあとの予熱を、ドライでご利用ください。

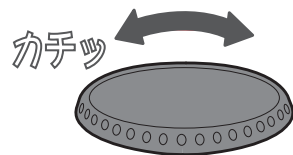


知っておいていただきたいこと

- かけ面のセラミックコーティングは磨耗してもそのまま使えます。汚れが付いたときは拭き取ってください。



- パイロットランプが点灯するときや、温度調節ダイヤルを回すときに、サーモスタットの働きで「カチッ」という音がしますが、異常ではありません。



- 長くお使いいただくと、かけ面のスチーム噴出孔に白い粉が付着してきます。これは水道水のカルキですので濡れた布か、つま楊枝などで取り除いてください。白い粉が衣類に付いたときは、払い落としてください。

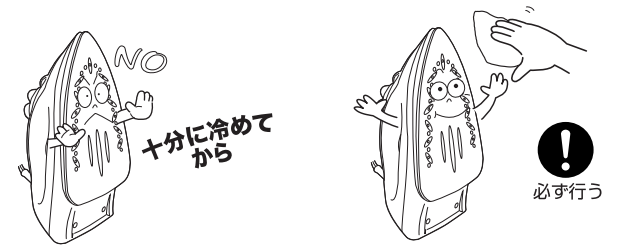
- スプレーのりをご使用の場合は、スチーム調節ダイヤルを必ず「ドライ」マーク☒に合わせてご使用ください。スチームで使用するとういロンのすべりが悪くなります。



お手入れと保管

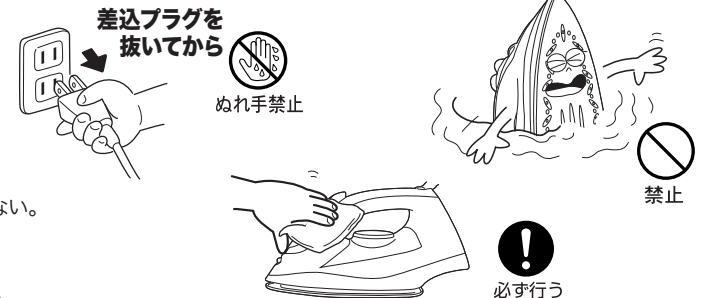
警告

- 必ず本体、特にかけ面が十分に冷めてから行う。ご使用後、手をかざし熱さを感じた時は、冷めるまでお手入れを行わない。やけどの原因になります。



注意

- お手入れの際は必ず差込プラグをコンセントから抜く。濡れた手で抜き差しをしない。ショート・感電やけがの原因になります。
- 本体を水につけたり、水をかけたり、丸洗いをしない。ショート・感電の原因になります。
- ご使用ごとに、必ずお手入れを行ってください。



■お手入れのしかた

- セルフクリーンはアイロン内部の汚れ及びスチーム穴の目詰まり防止に効果的です。使用する水質や使用頻度によりませんが、1ヶ月に1回の目安で行ってください。
- セルフクリーンの使用方法
 - ①水タンクに注水してください。
※注水のしかたは7ページ「1 水タンクに注水する」をご参照ください。
 - ②温度調節ダイヤルを「高温」最大の位置にセットし、パイロットランプが消灯した後、すぐに流し台(シンク)などでスチーム調節ダイヤルを「セルフクリーン」にセットしてください。
スチーム調節ダイヤルを「セルフクリーン」にセットしている間は、スチーム噴出孔からスチームや湯滴が出つづけます。
スチームや湯滴が出なくなったらセルフクリーン完了です。
- 本体・かけ面の汚れは、やわらかい布などで拭いてください。
かけ面の落ちにくい汚れは、中性洗剤か水をふくませた布で拭きとってください。
※金属ブラシ、みがき粉、シンナー、ベンジン、化学そうきんなどは使用しないでください。傷や変色の原因になります。
- スチーム噴出孔のつまりは、つま楊枝などで取り除いてください。
霧吹き噴出孔のつまりは、霧吹きボタンを数回押し続けて様子をみてください。



■保管

- ※保管する前に、必ずお手入れを行い、十分に乾燥させてください。
- スチーム調節ダイヤルは、必ず「ドライ」マーク☒に合わせて保管してください。
- 保管の際は、商品の入っていた箱にクッション材と共に収めてください。
箱がない場合はポリ袋等に収めて保管してください。
・湿気の少ないところに保管してください。
・保管時は上に物を載せたりしないでください。

箱がない場合
ポリ袋でもOK

